

## 感染症情報 2月22日～28日

府下小児科200医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	1275例（堺市 50例）
②溶連菌感染症	456例（堺市 23例）
③おたふくかぜ	161例（堺市 11例）
④伝染性紅斑	85例（堺市 10例）
⑤突発性発疹	82例（堺市 3例）

府下小児科・内科307医療機関（堺市28）から

インフルエンザ 12011例（堺市1289例）

が報告された。

インフルエンザを除く感染症は前週から6%増加し、上位の順位は変わらず第1位が感染性胃腸炎、第2位が溶連菌感染症、第3位がおたふくかぜとなっている。インフルエンザは定点当たり39.1と前週に続き1%減少したが、堺市では46.0と依然警報レベルを超えて増加している。堺市の定点調査ではB型が70%を占めるが、小中学生ではB型が85%に対し、3歳未満で半々、成人では逆にA型が55%を占める。3月3日現在、堺市では8学年で学年閉鎖、81クラスが学級閉鎖となっている。予防に心がけよう！